

北九州市感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第45週(令和7年11月3日～令和7年11月9日)

＜発生動向＞

第45週の定点あたりの報告数はインフルエンザで15.17となり、従前の注意報レベルの基準値である「10」を超えました。今後、インフルエンザの大きな流行の発生が見込まれるため、感染予防にご協力をお願いします。詳細は別紙をご確認ください。

また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告は8件ありました。

インフルエンザウイルスは、発症前日から発症後3～7日間は鼻やのどから排出されるといわれているため、インフルエンザにかかったら、その間は外出を控えましょう。また、周囲の人への感染を防ぐため、咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、顔を他の人に向けないようにしましょう。

■ 全数把握疾患報告

病名	北九州市		福岡県		全国(前週)	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	4	148	14	639	237	11,938
腸管出血性大腸菌感染症	1	47	1	249	178	3,781
梅毒	1	103	6	653	159	11,765
百日咳	3	405	17	3,090	718	84,679

■ 定点把握疾患報告数

病名	北九州市			福岡県		全国(前週)	
	報告数	定点当たり	定点当たり(前週)	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	30	1.30	0.65	151	1.24	8,777	2.28
インフルエンザ	349	15.17	8.61	1,562	12.80	57,424	14.90
急性呼吸器感染症	1763	76.65	86.70	7,750	63.52	307,447	80.02
RSウイルス感染症	14	1.08	2.31	95	1.36	2,821	1.21
咽頭結膜熱	4	0.31	0.92	33	0.47	612	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	2.46	2.85	281	4.01	5,104	2.18
感染性胃腸炎	85	6.54	10.77	311	4.44	8,946	3.82
水痘	3	0.23	0.31	15	0.21	493	0.21
手足口病	3	0.23	0.46	38	0.54	482	0.21
伝染性紅斑	18	1.38	2.69	74	1.06	1,902	0.81
突発性発しん	13	1.00	0.31	28	0.40	559	0.24
ヘルパンギーナ	3	0.23	0.00	14	0.20	387	0.17
流行性耳下腺炎	1	0.08	0.00	5	0.07	81	0.03
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	5	0.01
流行性角結膜炎	4	0.67	0.33	47	1.81	593	0.86
細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	8	0.02
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	27	0.06
マイコプラズマ肺炎	6	3.00	4.50	17	1.13	701	1.46
クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	0	0.00	5	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.00	0	0.00	1	0.00

※データは速報値として公開するものであり、後日修正される場合があります。
※全国のデータについては、更新時期が北九州市および福岡県の翌週となるため、前週の情報を掲載しています。
○北九州市感染症情報ホームページ(<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18300149.html>)もご参照下さい。

～注意情報～

令和7年11月13日

《インフルエンザ患者数が注意報レベルを超えました！》

令和7年第45週(11月3日～11月9日)の定点医療機関あたりの患者報告数が、従前の注意報レベルの基準値である「10」を超えました。(令和7年4月7日から定点医療機関数に変更があったため、変更前に使用していた基準値を参考としています。)

今後インフルエンザの大きな流行が発生する可能性があります。

インフルエンザに「かからない」、かかっても他の人に「うつさないよう」心がけましょう。

インフルエンザ患者の定点あたりの報告数

	41週 10/6～10/12	42週 10/13～10/19	43週 10/20～10/26	44週 10/27～11/2	45週 11/3～11/9
北九州市	4.65	5.04	3.65	8.61	15.17
福岡県	2.14	2.70	3.93	8.47	12.80
全 国	2.36	3.26	6.29	14.90	集計中

※ 定点当たりの報告数とは、定点医療機関(北九州市では23医療機関)での1週間ごとの報告数を定点医療機関数で割った値です。

➤ 感染経路



飛沫感染

感染した人の咳やくしゃみなどの飛沫と一緒に放出されたインフルエンザウイルスを口や鼻から吸いこみ感染



接触感染

インフルエンザウイルスが付着したドアノブ等を触れた手で、鼻や口、目などを触って感染

➤ 感染防止のポイント

○手洗い

こまめに手洗いをしましょう。



イラスト出典:
政府広報オンライン

○咳エチケット

咳やくしゃみをするときは、他の人にうつさないよう、マスクを着用する、又は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。



○その他

- ・適度な湿度を保持しましょう。(湿度を50～60%に保つ)
- ・体の抵抗力を高めるために、日頃から十分な休養と栄養摂取を心がけましょう。
- ・外出時は、なるべく人混みを避けましょう。